

## 採択企画「ペットボトルキャップをワクチンに！プロジェクト」

(代表者 玉木 裕子)

### 企画概要

エコキャップ運動（ペットボトルキャップ800個でワクチンに一本になる）を学内で行いこの運動を産大生に広め定着させる事を一番の目標・目的とし活動しました。この活動を知る事で、産大生が環境問題に関心を持ったりマナーの向上に対して意識を持つきっかけになったらいいなという思いも抱いていました。

### 結果報告

学内で収集した総キャップ数は09年6月から10年1月（8ヶ月間）で約4万個でした。これは約50人分のワクチンに相当します。

学内食堂との協同イベントを2回開催しました。7月には流しそうめん（3日開催）、11月（2日開催）にはおしるこイベント、（キャップ1個持参で参加可能）10月には学生健康保険部会のハロウィンイベントの際に宣伝をさせて頂きました。12月には大教室ロビーにてペットボトルキャップで作成したツリーや雪だるまなどを展示し、キャップがどういう流れをたどってワクチンになるのかを説明したのも一緒に掲示しました。この活動の甲斐ありメンバーが二人加わり、産大生への認知度が上がり、数値的な成果にも繋がったと考えております。

### 感想・まとめ

- ① 1から組織を作る事は大変！
  - ・意識の共有、目標の統一、モチベーションの維持等。仲が良いからといって、活動が上手くいくとは限らない事を実感。
  - ・向き合い話し合う事が一番大切
- ② 計画性の大切さを実感
  - ・先読み、早め早めの行動を心がける。社会人になった時に絶対に必要な力であると感じました。
- ③ 地道にこつこつ活動していく事は、何よりも大変で、大切な力
  - ・私たちの活動はキャップを回収→洗浄→個数確認→梱包→送付という地味な作業の繰り返しであり、地味ながら重労働でとても大変でした。こういった地道な行動こそがいつか「大きな何か」に繋がっているのではないかと感じました。

以上は反省で、ポジティブな感想としては、この活動が徐々に産大生に浸透しているとい

う事が感じられることです。活動開始当初はキャップ専用ボックスにゴミなどが入れられていましたが、年末にはボックスからキャップを回収するとすぐ満タンになっているという現状になっていました。

また、この活動を通し学んだことが沢山あります。メンバーからは、「自分達自身が楽しんで活動していれば、その楽しさは広がっていく」ということを学び、社会に出ても必要な事や大切な事を多く学ぶ事ができ、とても貴重な経験をすることができました。今まで関わって下さった人達に対し感謝の気持ちでいっぱいです。これからもこの活動を地道に続けていきたいと考えていますので、これからもどうぞよろしくお願い致します。

以 上